

週間市場レポート (2022年5月23日~5月27日)

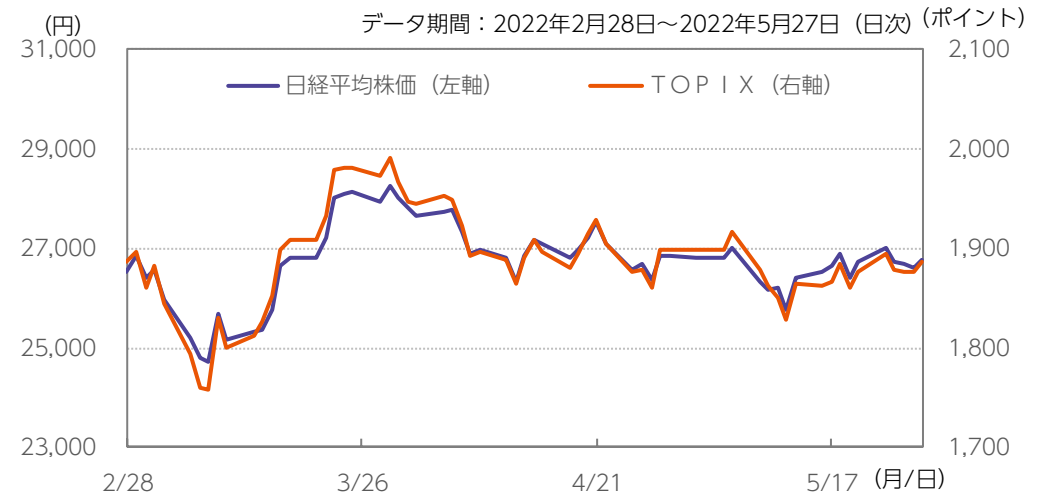
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/5/20	先週末 2022/5/27	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		26,739.03	26,781.68	0.16 ↗
TOPIX (東証株価指数)		1,877.37	1,887.30	0.53 ↗
ダウ工業株30種平均 (ドル)		31,261.90	33,212.96	6.24 ↗
S&P500種指数		3,901.36	4,158.24	6.58 ↗
ナスダック総合指数		11,354.62	12,131.13	6.84 ↗
ユーロ・ストックス50指数		3,657.03	3,808.86	4.15 ↗
S&P/ASX300指数		7,137.14	7,168.37	0.44 ↗
上海総合指数		3,146.57	3,130.24	▲0.52 ↘
MSCI AC アジア (除く日本)*		840.67	839.38	▲0.15 ↘
東証REIT指数		1,983.13	1,988.34	0.26 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		808.55	854.92	5.73 ↗
ASX300 REIT 指数		1,468.90	1,483.10	0.97 ↗
グローバルREIT (除く日本)*		191.20	199.53	4.36 ↗
日本10年国債 (%)		0.242	0.233	▲0.009 ↘
米国10年国債 (%)		2.781	2.738	▲0.043 ↘
ドイツ10年国債 (%)		0.944	0.963	0.019 ↗
英国10年国債 (%)		1.893	1.917	0.024 ↗
ドル/円		127.88	127.11	▲0.60 ↘
ユーロ/円		135.03	136.45	1.05 ↗
英ポンド/円		159.56	160.45	0.56 ↗
豪ドル/円		90.06	91.02	1.07 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,882.65	3,115.35	8.07 ↗
WTI原油先物 (ドル)		113.23	115.07	1.63 ↗
CRB指数		312.73	320.52	2.49 ↗

2) 日本の株式・債券市場

◀ 株式 ▶

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。前週末に米長期金利が低下したことから、週初はハイテク株の一角に買いが入り上昇したものの、米国の急速な金融引き締めや、中国の景気減速などへの警戒感は根強くその後は3日続落しました。週末は、岸田首相の外国人観光客の新規入国の再開表明により、インバウンド関連銘柄などを中心に物色買いが進んだものの、節目となる27,000円を超えると利益確定売りも出やすく、週間では前週末比で横ばいとなりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

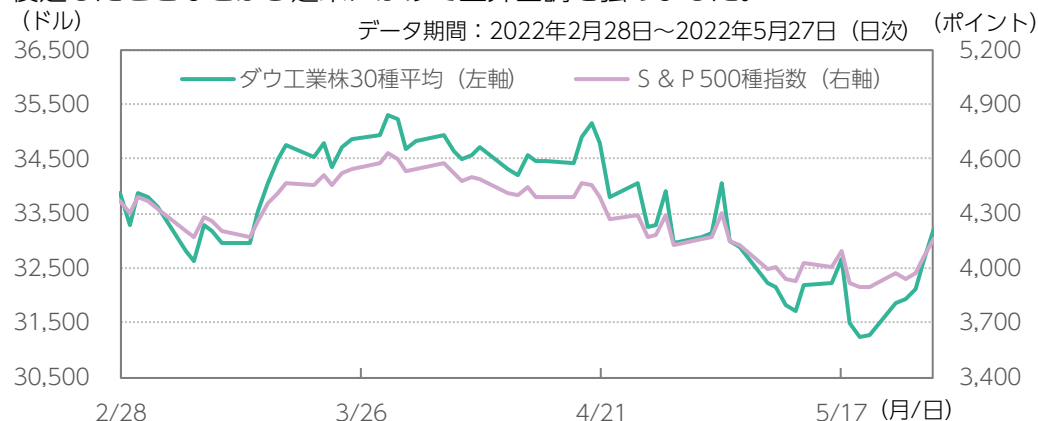
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。米景気の減速懸念から米長期金利が低下した流れを受け、国内金利は週初より低下基調となりました。しかし、金利が大幅に低下したことや月末を控え持ち高調整の売りも出やすく（利回りは上昇）、週間では前週末比では、横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

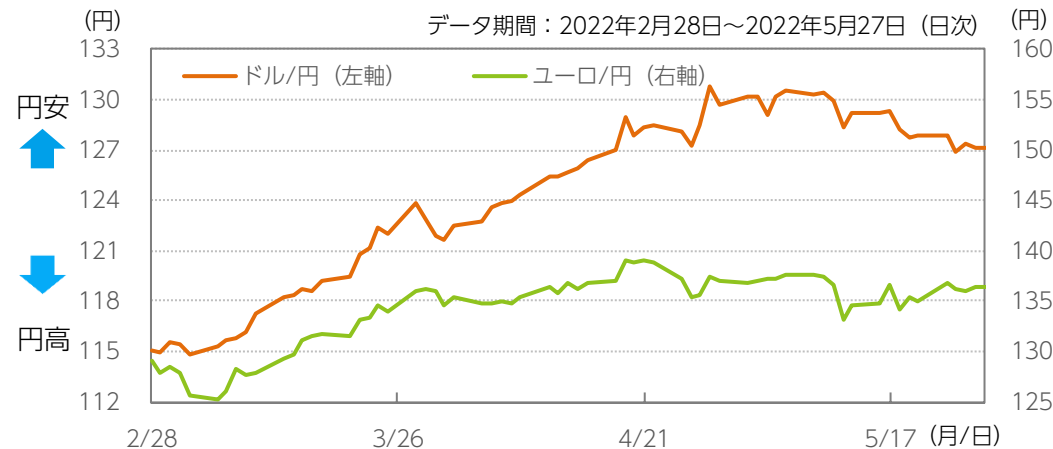
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で大幅に上昇しました。先週発表された大手金融や小売業の四半期決算が好調だったことや、中国上海市のロックダウン（都市封鎖）解除への期待などから、前週から6営業日続伸しました。25日（水）に公表された5月の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨が大方の市場予想通りであったことや、4月の個人消費支出価格指数の伸びが鈍化し、米連邦準備制度理事会（FRB）が過度な金融引き締めにくるとの懸念が後退したことなどから週末にかけて上昇基調を強めました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁が、7月の利上げに前向きな姿勢を示したことからユーロが対米ドルで上昇し、対円での米ドル売り・円買いにも波及しました。



5) 今週の見通しについて

先週の米国株式市場は、好調な企業決算や上海ロックダウン解除への期待などから、前週末比で上昇しました。

25日（水）に公表された5月のFOMC議事要旨では、参加者の大半が今後2回の会合での0.5%の利上げを支持していることが明らかとなりました。パウエル議長は4日の記者会見において、3会合連続の0.5%利上げを示唆していましたが、公表された議事要旨で、FOMC参加者の大半が同じ考えだったことが明確になりました。市場では、一部で懸念されていたほどFRBがタカ派（金融引き締め推進派）的ではなかったと受け止められ、株式市場では買い安心感が広がりました。FRBは積極的な引き締め継続姿勢を示しつつも、今後は必要に応じて政策を調整していく見込みです。

今週の株式市場は、米中の主要経済指標を確認しながら、週末まで一進一退の展開となりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>